

鶴ヶ谷福祉エリア一新 特養跡地に障害児施設

仙台市は本年度、宮城野区鶴ヶ谷5丁目の「鶴ヶ谷福祉エリア」再整備事業に着手する。エリア内の特別養護老人ホーム跡地を利用し、2年間で障害者や障害児のための施設群を新しく整備する計画だ。初年度は、直営の障害児通園施設「なかよし学園」「あおぞらホーム」の新築を予定している。

鶴ヶ谷福祉エリアは、仙台オープン病院の西側に位置する一角で、鶴谷養護学校を含めた広さは約2.8ヘクタール。市はエリアの南側にあった直営の特養ホーム「鶴寿苑」を3月に廃止、手狭だった障害者・障害児施設群を跡地に再整備することにした。

なかよし学園（約600平方メートル）は1979年の建設で老朽化が目立ち、あおぞらホーム（約300平方メートル）は鶴谷養護学校のプレハブ校舎の一部を間借りしている。これまでは別棟だが、事業内容が似ていることなどから合築施設として整備する。

新しい施設は鉄筋コンクリート平屋建てで、延べ床面積は約1400平方メートルとなる見込み。なかよし学園には指導室や遊戯室、あおぞらホームには保育室などを設け、事務室や医務室などは両施設の共用とする。

今年9月に着工し、来年3月に完成する予定。4月のオープンを目指している。

仙台市はエリア再整備2年目の来年度、知的障害者通所授産施設「つるがや福祉作業所」と、知的障害者通所更生施設「すずかけ」の移転新築にも着手する。

市直営のつるがや福祉作業所は、今回の再整備を機に民営化する方針を決定。

すずかけについては、運営主体の社会福祉法人が施設定員の拡充を検討している。

2005年06月27日月曜日

河北新報